



未来の変化に対応できる 人と組織をつくる

—世界的な不況のなかでの シチズングループの対応は

世界各国の需要が急激に縮小し、特に輸出比率の高い製造業にとってはこれまで経験したことのない最悪の経済環境になっています。シチズングループにおいても2008年度は業績の急激な悪化を余儀なくされました。

世の中の動きの変化はスピーディーにかつダイナミックになっており、企業が存続と繁栄するためには、あらゆる変化に対応するための強い体質／体制が求められています。つまりこれからも起こるであろう環境変化に対応できる強い体質を再構築できた企業にこそ、新しい環境での繁栄が待っているはず。私は、今回の不況によってシチズングループがエクセレントカンパニーに生まれ変わるチャンスが来ているのだと思っています。

—シチズングループのCSRと 事業活動の関わりは

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念のもとに、地球と人にやさしい製品を提供することをめざしています。企業が社会的責任を果たすには、正しい事業活動によって適正な利益を得ることが必要です。そして収益力を高めることによって、さまざまなステークホルダーに報いること、地域社会、地球環境への貢献も可能となります。従って継続的に利益を上げられる体質をつくるのがCSRを実践するための基礎となります。その上で、企業価値の向上とステークホルダーの願いを合致させていくことがシチズングループのCSRと考えています。

シチズングループは時計事業からスタートし、時計の設計開発・製造・販売・サービスを一貫して行ってきました。この時計作りで培った技術とノウハウを基盤として、電子デバイス事業や電子機器製品事業、産業用機械事業を展開しています。これらの事業に共通するのは、精密という極限のものづくりを

追求するシチズンのDNAです。精密の本質は、小さく、薄く、精度が高いこと。この3つが私たちの強みと考えています。

こうしたコンパクト化の技術はあらゆるものに求められており、未来商品の出現に伴ったニーズは無限にあるといえます。これからの社会において必要な場所で必要な時に必要なものを提供するために、シチズンのコア技術であり「Micro HumanTech」に象徴される“人にやさしい超小型技術・超精密技術・低消費電力技術”を幅広い分野に活用しながら社会生活の向上に貢献していくことがシチズングループの願いです。

—シチズングループが目指す企業像とは

私は昨年4月の社長就任にあたり「人が活きる会社」という企業目標を提示しました。「人が活きる」とは、厳しさを踏まえた上で一人ひとりが向上心と充実感をもって働ける姿をめざしています。企業にとって業績向上の土台となるのが、人材力のレベルアップです。そのために、従業員の潜在能力を引き出し、活躍できる場を提供することが会社の責任と考えています。加えて、いろいろなことを経験する機会を与え、失敗を恐れず未来にチャレンジする企業風土を醸成していきたいと思っています。



また、従業員自身にも自分たちの会社をどのような会社になりたいのか、自分で考え、自分で工夫していくことが求められます。全員が強い気持ちを持っていれば、なりたい会社に近づけるはず。社長は、あくまでも従業員がつくりたい会社を実現するための案内役であるべきだと考えています。

さらに我々は、シチズングループの一員であると同時に、社会のメンバーの一員であるという意識を持って仕事することを忘れてはいけません。コンプライアンスや内部統制は、制度をきちんと明文化することはもちろんですが、企業人として、また社会人としての誇りや道徳観が基本だと私は思っています。そして、自然に抑止力が働く形が本当のCSRです。従って、CSRを推進するには一人ひとりが人間性を高めていくことが大切です。

昨今は環境の変化が激しいので、昨日正しかったことが、明日にも正しいとは限りません。既成概念にとらわれず、ものごとの本質を考え直すことによってあらゆる変化に対応できる企業体質のもとに、人が活きる新しいシチズングループをめざして、実行していきます。

「シチズングループ CSR報告書2009」がここに完成いたしました。皆様からのご意見・ご感想を頂戴できれば幸甚に存じます。今後ともシチズングループへのさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009年6月

シチズンホールディングス株式会社
代表取締役社長

金森 充行